

Topic 57

米国アイオワ州とミズーリ州の VCP

- 1) こんなところですよ
- 2) アイオワ州とミズーリ州の VCP

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。今週は米国アイオワ州とミズーリ州のブラウンフィールドの様子をみてみます。

1) こんなところですよ

アイオワ州は、ミシシッピ川（東側）とミズーリ川（西側）の間に位置しており、肥沃な土壌と水に恵まれた農業州です。米国に加入したのは1846年12月28日（29番目）。州の総人口は約300万人（2005）、人口密度は約20人/k㎡。州都及び州最大都市はデモインです。

アイオワ州の主要農業生産物はとうもろこし、大豆、麦など。特にとうもろこしは国内生産量がトップです。私たちの日常生活でお世話になっているお野菜ですよ。コーンの缶詰、コーンスターチ、コーン油にコーンフレーク、そして食用だけではなく、アルコールやプラスチック原料等として幅広く利用されている植物です。

アイオワ州といえばもう1つご紹介したいことがあります。それは「マディソン郡の橋（The Bridges of Madison County）」。大ベストセラーとなったこのロマンス小説は、クリント・イーストウッド監督により映画化され日本でもブレイクしました。10年ぐらい前でしたか。

さて、おつぎはアイオワ州の南に位置しているミズーリ州です。米国加入は1821年8月10日、24番目。州の総人口は約580万人（2005）、人口密度は約30人強/k㎡。州都はジェファーソンシティ、州最大都市はカンザスシティです。同州は米国の物流の中心地。物流産業以外にも、農業、食品加工、化学薬品、電子製品製造等が州の経済を支えています。

同州の東端に位置するセントルイス（ミシシッピ川とミズーリ川の合流点に位置する商工業都市）には、「バドワイザー（ビール）」で有名となった「アンハイザーブッシュ社」本社の根拠地があります。バドワイザーの名前は、チェコにあるビールの名産地「ブドヴァイズ（Budweis）」由来だそうです。

2) アイオワ州とミズーリ州の VCP

さて2州のブラウンフィールド自主浄化プログラムを見てみましょう。

アイオワ州が運営するブラウンフィールドサイトの自主浄化プログラム（VCP）は1997年に立ち上がり、現在まで数十サイトの自主浄化を援助してきました。しかし、ツールの改善余地はまだあります。中でも、より網羅的なブラウンフィールドサイトのデータベース構築が課題と

して挙げられているようです。これはブラウンフィールド再開発を利用してコミュニティーの活性化を考えるプロセスにおいて必須となる初期のステップです。そのためにも Phase I や Phase II 調査を網羅的に実施することが必要になってくるのですかね～。

ここでちょっと視点を変えて、プログラムを運用するためにかかる人件費など（浄化や調査の費用は含まれません）の内訳をみてみましょう。

- ・ 43% 国からの補助金
- ・ 5% 州からの補助金
- ・ 26% 廃棄物会計から
- ・ 26% 浄化責任者が支払う調査費用（プログラム登録費用）

やはり国からの援助あって VCP が成立することが分かります。これはアイオワ州に限ったことではありません。一方で、ブラウンフィールド再開発の先進州では国からの援助なしでも VCP が運営できるぐらい力を蓄えていっている傾向もあるようです。

ミズーリ州が運営するブラウンフィールドサイトの自主浄化プログラム (VCP) は 1994 年に運営開始され、これまでに数百件のブラウンフィールドの自主浄化を援助してきました。アイオワ州と比較すると、財政インセンティブのツール（税控除制度、ファンド、助成金）が発達しています。財政インセンティブといえば、ミズーリ州ではドライクリーニング店が存在する、あるいは存在していた汚染サイトの再利用・再活性を支援する目的で、2000 年にドライクリーニングの信託投資が設立されております。同ファンドは 1 サイトの調査と浄化に対する上限が約 1 億 2 千万円。やはりこれぐらいは必要なのですね。Topic55 でご紹介したテキサス州と同様、ミズーリ州がドライクリーニングによる土壌・地下水汚染問題を真剣に受け止めている様子が伺えます。

来週は、米国で一番進んでいるドライクリーニングプログラムを運営しているフロリダ州をご紹介いたします。

Thanks God It' s Friday!

Thanks God It' s Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 (t.sato@ers-co.jp)

坂野のつけたし (banno@ers-co.jp)

Nickname -▼アイオワ州：「The Hawkeye State（鷹の目の州：名作「モヒカン族の最後」に出てくる白人の猟師の名前から、だとか）」「Land of Rolling Prairie（緩やかに起伏する大草原が広がっている）」▼ミズーリ州：「The Show Me State（俺を納得させろ！頑固で、疑い深い?）」「The Cave State（洞窟がいっぱいある）」「The Lead State（鉛の産出高が全米一。でもこれがブラウンフィールド）」「The Gateway to the West（アメリカ西部へ向かう入り口）」

事例紹介 -Dubuque (デビューク) : アイオワ州とイリノイ州とウィスコンシン州の3つの州境あたりに位置するデビューク。ミシシッピ川沿いに位置するこの街で、かつてのウォーターフロントが、America's River (<http://www.americasriver.com/>) というエンタテインメントいっぱいのリゾートパークに変貌しています。

かつて石油油槽所があったところには、地下水の流れに乗かって、約2万㎡の範囲にわたって地面にしみこんだ油がひろがり、また、ミシシッピ川に近いこともあって、地下水の対策が急務となっていました。米国環境保護局からの20万ドルの浄化助成金を受け、現地で汚染を浄化する方法が採用されています。フェントン法といわれるこの方法は、多くの井戸を使って過酸化水素水(オキシドール)を地面に注入し、地下水に溶け込んだ石油分を化学的に分解してしまう方法です。このサイトでは、同時に地下水の揚水も行われていますが、浄化が終了するのは2009年頃になるだろうとのことで、地上部分は駐車場として活用されるにとどまっています。

(http://www.epa.gov/brownfields/success/dubuque_ia_BRAG.pdf EPAのHPにある最新のサクセスストーリーです。今年の夏からフォーマットも変わり、かなり読みやすくなりました)

(http://sections.asce.org/quadcitey/Eng_Conf2005/DubuqueBrownfields-Terracon%20-%20John%20Brimeyer.ppt かなり重たいファイルです。このサイトの浄化を行った会社が作成したパワーポイント資料で、写真や図が多く、雰囲気をつかむのにはよい資料だと思います)